

日本 IDDM ネットワークからの 1 型糖尿病研究基金は東京大学大学院数理科学研究科の大田佳宏特任教授を代表とする研究チームに

膝島分離技術の AI ロボットによる標準化と題する研究テーマで、大田佳宏特任教授（東京大学大学院数理科学研究科、株式会社 Mercury 代表取締役社長：<http://www.mercury-inc.tokyo>）を代表とする、井原茂男特任教授（東京大学大学院数理科学研究科/先端科学技術研究センター：<http://www.ibm.math.jp>）らの研究チームは、日本 IDDM ネットワーク（<http://japan-idm.net>）からの 1 型糖尿病研究基金を受けることが決まりました。

Mercury 社は、文部科学省と国立研究開発法人 日本医療研究開発機構、生命動態システム 科学推進拠点事業を契機として 2016 年 10 月に生まれた東京大学大学院数理科学研究科発 のベンチャー企業で、高度数学を用いた AI をロボットに実装し、医療製薬分野におけるバイオ実験の自動化と、より高精度かつ高速にビッグデータ解析を行うための研究開発を行っています。

東京大学大学院数理科学研究科(研究科長 河野俊丈)は、1992 年に大学内の複数の数学教室を合併し、独立大学院として設置されました。現在まで、東京大学で数学・数理科学の教育研究を担う組織として、多数の優れた人材を輩出し日本の数学界を牽引してきました。数学自身の発展だけでなく、産業界およびすべての分野と協力した横断的な数理科学研究 および数理科学教育を促進することにも力を注いでいます。生命科学と数理科学の融合 の一環として、バイオ実験・AI ロボットの融合開発を支援しています。

日本 IDDM ネットワークとは。1995 年（平成 7 年）に起きた阪神・淡路大震災で、被災地の患者はインスリンの入手等に大変な苦勞を強いられました。この震災が契機となり、こうした緊急時の対応を含めた患者・家族会の全国的連携を図るため同年 9 月に「全国 IDDM 連絡協議会」が発足しました。現在では、「1 型糖尿病研究基金」を設立し、1 型糖尿病根治に向けた研究をサポートなども行う患者・家族と研究者、医療者、関連企業、行政、そして社会とつなぐネットワークに至っています。

膝島分離技術の AI ロボットによって、1 型糖尿病の根本的治療への新たな道が開けることが期待されます。